Voltage Controlled Filter
(Lopass Filter)
(Hipass Filter)
(Bandpass Filter)

4. リング変調器　Ring Modulator
5. 残響付加器　Reverberation Unit
6. 仕上り発生器　Envelope Generator
7. 電圧制御増幅器　Voltage Controlled Amplifier
8. ミキサー　Audio Mixer
9. 鍵盤　Keyboard
10. 連続電圧源　Sequencer　（南）
3. 楽譜タイプライター

寄贈者のお父さんが、大正十年頃アメリカから買ってきたものらしい。倉庫の中に長らく眠っているのが発見され、本校に寄付された。（白砂）

〔横組〕（『東京芸術大学創立九十周年記念　楽器展―東洋の音・西洋の音』東京芸術大学芸術資料館・音楽学部・音楽学部楽器展実行委員会　二～七頁）

三　創立百周年記念事業

昭和六十二年の東京芸術大学創立百周年記念事業に先立ち、昭和五十六年七月、評議会は「東京芸術大学創立百周年事業実行準備委員会要項」を定めた。

東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会要項を次のように定める。

昭和五十六年七月二十一日

東京芸術大学長　山本正男

東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業
準備委員会要項

（昭和五十六年七月十六日評議会裁定）

（趣　旨）

第一　東京芸術大学に、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業を企画・立案するため、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の構成）

第二　委員会の委員は、次の各号に掲げる者をもって組織し、委員は、学長が委嘱する。

（1）教授会が選出する教授又は助教授各五名
（2）事務局長

（委員の任期）

第三　委員の任期は、二年とする。

（任　務）

第四　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

（1）一〇〇周年記念式典に関すること。
（2）一〇〇年史の編集に関すること。
（3）記念展及び記念演奏会に関すること。
（4）その他必要な事業に関すること。

（委員長及び会議）
第五　委員会の委員長は、委員の互選により選出する。
2　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
（委員以外の者の出席）
第六　委員長が必要と認めたときは、委員以外の職員に出席を求め、その意見を聞くことができる。
（専門部会）
第七　委員会が必要と認めるときは、専門部会を置くことができる。
2　専門部会に関し必要な事項は、別に定める。
（幹　事）
第八　この委員会に幹事を置き、事務局及び学生部の課長をもって充てる。
（委員会の庶務）
第九　委員会の庶務は、事務局庶務課において処理する。

附　則

1．この要項は、昭和五十六年七月十六日から実施する。
2．要項第三の定めにかかわらず、最初の委員の任期は、昭和五十八年三月三十一日までとする。
3．この要項は、一〇〇周年記念事業が終了したときをもって廃止する。

（『東京芸術大学学報』第一九〇号　昭和五十六年八月十五日　一～二頁）〔横組〕

昭和五十八年三月一日には東京芸術大学創立百周年記念演奏会部会要項が定められる。

東京芸術大学創立一〇〇周年記念演奏会部会要項を次のとおり定める。

昭和五十八年三月一日

東京芸術大学長　山　本　正　男

東京芸術大学創立一〇〇周年記念演奏会部会要項

（趣　旨）
第一　この要項は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会要項第七の二項の定めに基づき、東京芸術大学一〇〇周年記念演奏会部会（以下「記念演奏会部会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。
（組　織）
第二　記念演奏会部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（1）東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会委員のうち音楽学部委員二名
（2）音楽学部演奏委員会委員
（3）その他部会長が必要と認めるもの若干名
（任　務）
第三　記念演奏会部会は、東京芸術大学一〇〇周年記念演奏会のため、次の各号に掲げる事項を審議する。
（1）記念演奏会の企画、立案に関すること。
（2）その他必要な事項に関すること。
（部会長及び会議）
第四　記念演奏会部会に部会長を置き部会長は音楽学部演奏委員長

をもって充てる。

2　部会長は記念演奏会部会を招集し、その議長となる。

（幹　事）

第五　記念演奏会部会に幹事を置き、音楽学部事務長をもって充てる。

（庶　務）

第六　記念演奏会部会の庶務は音楽学部事務部において処理する。

（雑　則）

第七　この要項に定めるもののほか、記念演奏会部会の運営に関し、必要な事項は、記念演奏会部会において定める。

（附　則）

1　この要項は、昭和五十八年二月十日から実施する。

2　この要項は、一〇〇周年記念事業が終了したときをもって廃止する。

（横組）

（『東京芸術大学学報』第二〇九号　昭和五十八年三月十五日　一～二頁）

昭和五十九年一月五日には東京芸術大学創立百周年記念式典部会要項、東京芸術大学創立百周年記念資料展部会要項、東京芸術大学創立百周年記念楽器展部会要項、などが定められる。

「東京芸術大学創立一〇〇周年記念式典部会要項」を次のとおり定める。

昭和五十九年一月五日

東京芸術大学長　山　本　正　男

東京芸術大学創立一〇〇周年記念式典部会要項

（趣　旨）

第一　この要項は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会要項第七の二項の定めに基づき東京芸術大学創立一〇〇周年記念式典部会（以下「式典部会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組　織）

第二　式典部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（1）　各学部長

（2）　事務局長

（3）　事務局各課長

（4）　東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会委員長

（5）　その他、部会長が必要と認める者

（任　務）

第三　式典部会は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念式典のため、次の各号に掲げる事項を審議する。

（1）　記念式典の企画・立案に関すること。

（2）　その他、必要な事項に関すること。

（部会長及び会議）

第四　式典部会に部会長を置き、部会長は東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会委員長をもって充てる。

2　部会長は、式典部会を招集し、その議長となる。

（幹　事）

第五　式典部会に幹事を置き、庶務課長をもって充てる。

（庶　務）

第六　式典部会の庶務は、庶務課において処理する。

（雑　則）

第七　この要項に定めるもののほか、式典部会の運営に関し、必要な事項は式典部会において定める。

付　則

1　この要項は、昭和五十八年十二月二十二日から実施する。

〔中略〕

「東京芸術大学創立一〇〇周年記念楽器展部会要項」を次のとおり定める。

昭和五十九年一月五日

東京芸術大学長　山　本　正　男

東京芸術大学創立一〇〇周年記念楽器展部会要項

（趣　旨）

第一　この要項は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会要項第七の二項の定めに基づき東京芸術大学創立一〇〇周年記念楽器展部会（以下「楽器展部会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組　織）

第二　楽器展部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（1）　芸術資料館長

（2）　東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会委員のうち音楽学部委員二名

（3）　芸術資料館運営委員会委員のうち音楽学部委員

（4）　その他、部会長が必要と認める者

（任　務）

第三　楽器展部会は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念楽器展のため、次の各号に掲げる事項を審議する。

（1）　楽器展の企画立案に関すること。

（2）　その他、必要な事項に関すること。

（部会長及び会議）

第四　楽器展部会に部会長を置き、部会長は芸術資料館長をもって充てる。

2　部会長は、楽器展部会を招集し、その議長となる。

（幹　事）

第五　楽器展部会に幹事を置き、音楽学部事務長及び芸術資料館事務長をもって充てる。

（庶　務）

第六　楽器展部会の庶務は、芸術資料館において処理する。

（雑　則）

第七　この要項に定めるもののほか、楽器展部会の運営に関し必要な事項は、楽器展部会において定める。

付　則

1　この要項は、昭和五十八年十二月二十二日から実施する。

「東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業部会要項」を次のとおり定める。

昭和五十九年一月五日

東京芸術大学長　山本正男

東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業部会要項

（趣旨）

第一　この要項は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会要項第七の二項の定めに基づき東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業部会（以下「記念事業部会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第二　記念事業部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（1）各学部長

（2）附属図書館長

（3）芸術資料館長

（4）学生部長

（5）事務局長

（6）東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会委員長及び委員二名

（7）その他、部会長が必要と認める者

（任務）

第三　記念事業部会は、東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業のため、次の各号に掲げる事項を審議する。

（1）記念事業の企画・立案に関すること。

（2）その他、必要な事項に関すること。

（部会長及び会議）

第四　記念事業部会に部会長を置き、部会長は学生部長をもって充てる。

2　部会長は、記念事業部会を招集し、その議長となる。

（幹事）

第五　記念事業部会に幹事を置き、学生課長及び施設課長をもって充てる。

（庶務）

第六　記念事業部会の庶務は、学生課において処理する。

（雑則）

第七　この要項に定めるもののほか、記念事業部会の運営に関し必要な事項は、記念事業部会において定める。

付則

1　この要項は、昭和五十八年十二月二十二日から実施する。

〔横組〕（『東京芸術大学学報』第二一九号　昭和五十九年一月十四日　二～四頁）

百周年記念事業より、音楽学部に関連するものは以下のとおり。なお、百周年記念演奏会に関する詳細な資料は、本百年史『演奏会篇　第三巻』を参照のこと。

III　記念楽器展

――小泉文夫記念資料室所蔵アジア・アフリカの楽器を中心として――

日時　昭和六十二年十月四日（日）～十月二十五日（日）

10・00～16・00（月曜休館）

場　所　旧奏楽堂（上野公園内）

主として、アジア・アフリカの楽器の展示である。楽器を単なる音楽を奏でるための道具としてではなく、その歴史的文化的背景・生態系と(の)係わりにおいてとらえ、その象徴的意味・社会的な機能を浮き彫りにする。楽器の形を鑑賞するにとどまらず、触ったり、鳴らしたり、当該の楽器を使った音楽や儀礼の映像を見たりすることができるよう配慮する。ミニ・コンサートをも含んだ多感覚的な展示とする。

楽器は、故小泉文夫東京芸術大学教授の遺族から本学音楽学部に寄贈されたものの一部である。

備考　小泉文夫記念資料室の全所蔵楽器約五〇〇点のカタログを作成する。

Ⅳ　記念演奏会

音楽関係記念事業の中核として、一〇〇年の歴史の集大成ともいうべき「一〇〇周年記念特別演奏会」を開催するものであり、その概要は、次のとおりである。〔七四八～七四九頁に掲載〕

Ⅴ　百年史刊行

東京芸術大学の前身である東京美術学校及び東京音楽学校の創立以来、現在に至るまでの本学一〇〇年の歴史を、その創立前史を含めて『東京芸術大学百年史』全六巻として刊行する。

『百年史』は、東京美術学校篇三巻、東京音楽学校篇二巻、東京芸術大学篇一巻とし、各巻の内容は次のとおり。

東京美術学校篇

第一巻　創立～久保田校長時代（明治三十四年まで）

第二巻　正木校長時代～赤間校長時代（昭和七年まで）

第三巻　和田校長時代～東京美術学校廃止（昭和二十七年）

東京音楽学校篇

第一巻　明治時代

第二巻　大正時代～東京音楽学校廃止（昭和二十七年）

東京芸術大学篇

美術学部・音楽学部合せて一巻。

東京美術学校篇及び東京音楽学校篇の各第一巻は、昭和六十二年九月末刊行予定。各B5判、頁数約六〇〇頁、頒価未定(九、〇〇〇円程度)。なお、第二巻以降は隔年刊行の見込み。

Ⅵ　芸術国際交流基金の設立

大学の国際交流には、諸外国の大学や研究機関との共同研究、教育研究者の交流、学生の派遣・受入れ、情報の交換などがあげられるが、これらは、国際化時代をまつまでもなく、従前から積極的な取り組みが強く求められていたところである。

本学創立一〇〇周年を機会に、芸術国際交流基金を設立して、これに対処したい。

具体的な事業内容として、次のようなものが予定される。

1　国際会議、共同研究、国際セミナー等の開催

2　教育研究者の交流

3　学生の派遣及び受入れ

演　奏　会〕

出　　演	メ　　モ
指　揮：ジャン・フルネ 演　奏：東京芸術大学管弦楽研究部	フランス音楽を手がけては世界屈指の指揮者を迎えて，フランス三大傑作の演奏会
①菊岡　忍，味見　享，赤木直明，増渕任一朗，山口五郎，佐野　萠 ②砂川康江，矢崎明子，藤井久仁江 ③山口五郎，青木鈴慕，北原篁山，山本邦山 ④増渕任一郎，山勢司都子 ⑤赤木直明，市川春子，味見　享，田島佳子 ⑥シテ　藤波重満　　⑦シテ　野村万之丞 ⑧シテ　佐野　萠，ワキ　宝生　閑，笛　藤田朝太郎 小鼓　幸　正影，大鼓　柿原崇志，太鼓　観世元信	①は100周年にふさわしい祝賀曲で，作詞伊沢修二，作曲六世杵屋三郎助，特に能楽も参加
指　揮：佐藤　　眞 野田　暉行 小鍛治邦隆 演　奏：東京芸術大学管弦楽研究部 室内楽科教官・学生	作曲科常勤教官全員による新作発表演奏会
演　奏：外国人演奏家（３名），舞踊家（２名）， 教官・学生等（約30名）	元外国人教師サプトノ氏を招き，ガムラン導入以来の14年を振り返りその成果を問う
①演　奏：有賀誠門，他打楽器科学生 ②演　奏：杉木峯夫，島田俊雄，守山光三， 伊藤　清，管楽器科学生 ③指　揮：青山昌国，演奏：管楽科教官・学生 ④演　奏：弦楽科学生 ⑤演　奏：田村　宏，原田紘一郎，澤　和彦，田中雅宏 ⑥指　揮：浅妻文樹，演奏：弦楽科教官・学生	教官と学生による室内楽
指　揮：山田一雄　　演出：三谷礼二 配　役：オルフェオ　　伊原直子　木村宏子 (Wキャスト) エウリディーチェ　浅田啓子　大沼美恵子 アモーレ　　斉田正子　西野　薫 出　演：東京芸術大学オペラ研究部 演　奏：東京芸術大学管弦楽研究部	日本最初のオペラ公演を，移築された旧奏楽堂で再演
指　揮：若杉　弘 独　唱：大野徹也，西　明美，伊原直子， 多田羅迪夫，篠崎義昭 語り手：原田茂生 合　唱：声楽科大学院生・学生 演　奏：東京芸術大学管弦楽研究部	後期ロマン派の終焉を飾る傑作

一部内容を変更する場合もありますので，あらかじめご了承願います。

種　　目	開催日時・会場	曲　　目
オーケストラ演奏会 (オーケストラ第225回)	62．5．30（土） 19時開演 サントリーホール 大ホール（赤坂）	①幻想交響曲作品14（ベルリオーズ） ②牧神の午後への前奏曲（ドビュッシー） ③「ダフニスとクロエ」組曲第2番（ラヴェル）
邦 楽 演 奏 会 (邦 楽 第 37 回)	62．9．16（水） 18時開演 国立劇場大ホール （三宅坂）	①合同曲「晴天の鶴」（伊沢修二作詞） ②箏曲「根曳の松」（生田流） ③尺八「鹿の遠音」（琴古流）「鶴の巣寵」（都山流）吹合せ ④箏曲「都の春」（山田流） ⑤長唄「鶴亀」（合奏曲） ⑥舞囃子「田村」（観世流） ⑦狂言「福の神」 ⑧能祝言「高砂」（宝生流）
作 品 展 演 奏 会 (オーケストラ第226回)	62．9．19（土） 18時30分開演 サントリーホール 大ホール（赤坂）	①電子交響曲第三番（仮題）（南　弘明） ②管弦楽曲　（浦田健次郎） ③管弦楽曲　（佐藤　　眞） ④弦楽合奏曲（松村　禎三） ⑤室内楽曲　（尾高　惇忠） ⑥管弦楽曲　（野田　暉行）
ガ ム ラ ン 演 奏 会	62．10．4（日） 5（月） 18時30分開演 東京芸術大学 旧奏楽堂（上野公園）	①儀典曲 BABAR LAYAR ②フル編成のアンサンブルによる古曲 ③舞踊作品 KELANA TOPENG ④作曲科卒業生によるガムランを素材にした新作品　2曲 ⑤ジャワの演奏家を中心にした小編成アンサンブルによる古曲 ⑥サプトノ氏創作の舞踊作品 PRIYAGAMA
室 内 楽 演 奏 会	62．10．6（火） 18時30分開演 東京芸術大学 旧奏楽堂（上野公園）	①打楽器合奏：アイオニゼーション（バーレーズ） ②金管五重奏：金管五重奏による古いフランス民謡 「シャンソヌリ」（バルボトゥ） ③木管合奏：13管楽器のためのグラン・パルティータ （モーツァルト） ④弦楽四重奏：弦楽四重奏曲（ハイドン） ⑤ピアノ四重奏：アダージョとロンド ヘ長調 D. 437（シューベルト） ⑥室内オーケストラ：セレナーデ 第1番 ニ長調 K. 100（モーツァルト）
オ ペ ラ 公 演	62．10．9（金） ～12（月） 18時30分開演 東京芸術大学 旧奏楽堂（上野公園）	オルフェオとエウリディーチェ（グルック）
オーケストラ演奏会 (オーケストラ第227回)	62．11．27（金） 18時30分開演 サントリーホール 大ホール（赤坂）	グレの歌（シェーンベルク）

4　芸術情報の交換

5　その他

（『百周年記念事業関係』）

百周年記念事業では、芸術研究振興財団を設置、同財団に東京芸術大学創立百周年記念募金委員会を置き、大規模な募金活動が行われた。とくに百周年記念演奏会と楽器展の成功のために、同声会もこれに協力し募金を呼びかけている。

東京芸術大学創立一〇〇周年記念募金のお願い

東京芸術大学一〇〇周年記念募金委員会（同声会）

〒一一一〇　東京都台東区上野公園一二―八

電話　東京〇三（八二八）六一一一（大代表）

東京芸術大学創立一〇〇周年記念募金のお願い

昭和六十一年十二月

一〇〇周年記念募金委員会会長　福井直俊

同声会会長　酒井弘

同声会理事長　中山冨士雄

同声会会員各位

音楽学部教職員

および卒業生各位

拝啓

同声会会員、教職員および卒業生の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。同声会会員の皆様にはすでに会報（昭和六十年一月・第三二九号）をもってご案内した通り、明年は東京芸術大学創立一〇〇周年を迎えます。音楽取調掛長であられた伊沢修二先生の手で東京音楽学校設立の準備がなされ、開校の官報告示がなされたのは、明治二十年十月四日のことでした。同日は、東京美術学校開校の日にも当たります。そこで、東京芸術大学では、藤本学長のもとに、服部音楽学部長を委員長とし、中根美術学部長を副委員長とする「東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業準備委員会」を設けて、開学記念日〔昭和六十二年十月四日〕当日の記念式典を中心に多彩な行事を企画しています。また、かねてこの日に備え、両学部の教官は拠金を行って芸術研究振興財団を設立し、このたび、その財団組織の内部に、「東京芸術大学創立一〇〇周年記念募金委員会」が設けられることになりました。募金委員会は、芸術関連企業・一般企業等をも対象に広く募金活動を繰り広げますが、昭和六十一年十二月十五日に催された募金委員会において、音楽学部卒業生および教職員各位に対しては、同声会が呼び掛けを行うことになりました。

一〇〇周年記念行事は、〔1〕記念式典〔2〕記念演奏会〔3〕記念楽器展〔4〕記念展覧会〔5〕貴重図書展〔6〕百年史の編集刊行〔7〕芸術国際交流等のための基金の設立の七部門に分かれますが、音楽学部にとって当面の緊急な課題は、一〇〇周年記念特別演奏会と楽器展の成功であり、それにおとらず重要なのが、音楽取調掛以来の歴史をとどめる百年史の編集刊行と将来の芸術大学の発展に資する芸術国際交流等のための基金の設立であります。そのため

に、音楽学部卒業生と教職員各位を対象に募金を行いますので、なにとぞ趣旨にご賛同のうえ、ご寄付をお願い致します。

なお、当募金はただいま国税庁に対して、免税非課税の承認を申請中でありますが、その際、一万円までは（一万円をふくむ）免税非課税の対象とならず、一万円を超える部分のみが対象となります。ただし、「同声会」としては、一万円を超えた場合でも別記の記念品を贈呈したく、この場合は、免税・非課税の取扱いを受けることはできません。（この場合、振込にあたっては、別紙〝赤〟の用紙を使って下さい。）一万円を超えて拠金し、かつ、記念品を不要とする場合は、免税・非課税の取扱いを受けることができます。（この場合、振込に当っては、別紙〝青〟の用紙を使って下さい。）　敬具

記念品の送付について

今回の一〇〇周年募金に当たっては、皆様方にともども一〇〇周年を祝っていただくため、東京芸術大学音楽学部の協力を得て、次のように取り計らいます。演奏会の入場券及び記念品ご希望の方は、振込用紙の裏面に、例のようにご記入下さい。

〔1〕一〇〇周年記念特別演奏会へのご招待

一万円以上ご寄付の方すべてに、一〇〇周年記念特別演奏会（№1～№7）のどれかの催しの入場券一枚を贈呈します。別記で、催しとその番号をご覧の上、振替用紙の裏面の該当番号を○で囲んでください。なお、ひとつの催しにご希望が偏った場合には、申し訳ありませんが、当方で抽選の上、調整をさせていただく場合がありますので、下記の例のように、第一希望に◎、第二希望に○を付けてください。入場券は、その催しに間に合うように発送致します。昭和六十二年五月三十日のオーケストラ演奏会（ジャン・フルネ指揮）へのご招待をご希望の方は、四月三十日までにお申込をお願い致します。

例

◎	1
	2
○	3
	4
	5
	6
	7

〔2〕一〇〇周年記念品

上記の〔1〕とは別に、今回の東京芸術大学創立一〇〇周年記念募金に当たっては、別記の記念品を用意しました。三万円以上ご寄付の方に記念品として、お届け致します。この品は、出演者と関係者のご了承のもとに、東京芸術大学創立一〇〇周年記念募金に協賛される同声会の会員、音楽学部教職員・卒業生および東京芸術大学音楽学部にとくに縁故の深い方のみに、記念品としてお届けするもので、別途販売などは一切致しません。記念品ご希望の方は、振替用紙の裏面をご覧の上、ご記入下さい。ヴィデオ・カセット・テープについて、VHSまたはベータ・マックスのいずれかの指定をお忘れにならぬように、お願い致します。ご指定のない場合には、VHS方式の方をお送りします。記念品は、開学記念日（昭和六十二年十月四日）以前にお手元に届くように発送致します。

楽器展について

東京芸術大学創立一〇〇周年記念楽器展

――小泉文夫記念資料室所蔵アジア・アフリカの楽器を中心として――

日　時：62・10・4(日)～24(土)

会　場：東京芸術大学旧奏楽堂（上野公園）

メ　モ：楽器展示とデモンストレーション

記念品について

下記の三点を家庭用のヴィデオ・デッキで見ることができるヴィデオ・カセット・テープ（VHSまたはベータ・マックス）に収めたもの。

主な内容

① 皇太后陛下御着　能楽「鷺」（宝生英雄ほか）　長唄「安宅勧進帳」（吉住小三郎ほか）　清元節「隅田川」（清元延寿太夫）　踊「京鹿子娘道成寺」（職員、生徒一同）　洋楽演奏（職員、生徒）

――昭和五年六月二十一日　奏楽堂における演奏情景の十六ミリ・フィルム（無声フィルム、約九分）――

② 皇后陛下御着　能楽「小鍛冶」（前シテ　梅若万三郎、後シテ　観世左近、ワキ　宝生新）　箏曲「皇太子殿下御誕生奉祝歌」（宮城道雄、中能島欣一）　長唄「百夜草神田祭」（吉住小三郎、杉本金太郎）　洋楽「皇太子殿下御誕生奉祝歌」（上野児童音楽学園、上野児童合唱団）　パイプオルガン独奏（真篠俊雄）　「三つのヴァイオリンのための協奏曲」（Vn　鈴木共子、吉沢滋野、多　久興、Pf　今井治郎）　「三つのピアノのための協奏曲」（Pf　豊増　昇、永井　進、水谷達夫、弦楽　東京音楽学校管弦楽部）　四部合唱「皇太子殿下御誕生奉祝歌」（指揮　橋本国彦、管弦楽　東京音楽学校管弦楽団、ソプラノ　浅野千鶴子、藤本恵美、テノール　城多又兵衛、バリトン　沢崎定之、バス　伊藤武雄、合唱　東京音楽学校生徒）

――昭和九年四月二十一日　奏楽堂における演奏情景の十六ミリ・フィルム（有声フィルム、約十四分）――

③ 明治二十三年新築当時の東京音楽学校校舎　現在の音楽学部校舎と授業風景（畑中、菊岡、安川各教官）　明治十三年頃の音楽取調掛の教室とスクエア・ピアノ　スクエア・ピアノによるメーソン作『ひとつとや変奏曲』　伊沢修二の留学とメーソン　メーソン考案の唱歌掛図小学唱歌集とその版木再発見のエピソード　メーソンと才田光則製作のリード・オルガン　初期ピアノ教則本（ウルバッハ、バイエル）と『楽典』　ウルバッハ作『ワルツ』（小林教官）　明治十八年卒業写真（幸田延ほか）　エッケルト作「三声部の箏のためのピチカート・ポルカ」（ボルン指揮　邦楽科学生）　明治二十七年に奏楽堂で上演されたグノー作『ファウスト』の書斎の場の再現（オペラ研究部）　奏楽堂内の装飾　滝廉太郎のピアノ演奏情景　明治三十六年に奏楽堂で上演されたグルック作『オルフォイス』と三浦環　柳兼子・大島正泰両氏の対談と演奏（『カルメン』から『ハバネラ』）　昭和六年の録音『ローエングリン』と増永丈夫（藤山一郎）氏のお話し　上野児童学園　宮城道雄の演奏情景　團伊久磨氏が語る戦争中の音楽学校　乗杉校長を囲む昭和十九年の記念撮影　昭和二十四年芸術大学音楽学部へ移行　奏楽堂における昭和五十年度入学式と福井学長の式辞　学生たちの声　奏楽堂のオルガンと演奏（秋元教官）　奏楽堂移転

計画と新奏楽堂の構想

――昭和五十年九月にNHKの特集番組として放映された「東京音楽学校」（六十分）――

〔横組〕

（『百周年記念事業関係』）

記念楽器展に際して『東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室　所蔵楽器目録』が発行された。同冊子より「目録刊行にあたって」、「はしがき」を掲載する。

東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室
所蔵楽器目録

CATALOG OF THE MUSICAL INSTRUMENT COLLECTION
of
THE KOIZUMI FUMIO MEMORIAL ARCHIVES
FACULTY OF MUSIC, TOKYO GEIJUTSU DAIGAKU

Edited
by the
Koizumi Fumio Memorial Archives
Tokyo Geijutsu Daigaku
1987

目録刊行にあたって

本学創立百周年の記念事業の一環として、この十月に音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵の楽器の展示が企画されました。これは本学の楽器資料の中で最も新しい所蔵品であり、この機会に初公開できるのはまことに喜ばしいことと思われます。この冊子は小泉文夫記念資料室所蔵の楽器の総目録として、展示の案内書を兼ねるべく刊行されたものであります。

今回展示される楽器のほとんどは、本学の民族音楽学の教授であった小泉文夫氏（一九二七～一九八三）の手によって蒐集されました。これは氏の急逝後、昭和五十八年の秋に未亡人から本学に研究資料として寄贈されたものであります。

楽器は申すまでもなく、音楽を奏でるために作られた物であります。しかし、これは単に妙なる音を発する道具にとどまりません。楽器は眺めても、触っても、美しい物であります。時には、美術工芸の粋を尽くした楽器さえあって、目をみはるのであります。このたびの展示は、このような楽器のもつ多面的な性格に光を当てる企画であるやに聞いております。とりわけアジア・アフリカの楽器を中心に、いくつかのミニ・コンサートをも含む楽器展が、旧東京音楽学校奏楽堂を会場として催されることは、本学の記念事業としてまことにふさわしく、かつ時宜を得たものと考えております。

この記念楽器展の実現には多くの方々の御協力と御援助をいただきました。厚く御礼を申しあげます。とりわけ、本目録の制作をこころよく引きうけられた株式会社平凡社の御好意は、特に記して感謝の意を表する次第であります。

昭和六十二年九月吉日

東京藝術大学長　藤本能道

はしがき

本冊子は東京藝術大学音楽学部音楽研究センターの小泉文夫記念資料室所蔵の楽器全六四三点の総目録である。ここでは個々の楽器の名称をはじめ構造、材質、付属品、音域、寸法などのデータ、および奏法、用途、文化的背景などの情報をできるかぎり簡潔に付し、写真を添えた楽器カタログを目ざした。

これらの楽器は本学音楽学部の教授であった故小泉文夫氏（一九二七～一九八三）によって過去四半世紀の間に蒐集されたものである。著名な民族音楽学者であった氏は昭和三十二～三十三年のインド留学をはじめ、ユーラシア大陸、アフリカ、アメリカ、オセアニアと広く世界の諸民族の音楽を調査して歩かれたが、行く先々で楽器を求めて帰られた。これらは氏の研究のための音楽資料として活用された。

一個人の蒐集としては極端に大きく、かつ多様性に富んだこの楽器コレクションは、四年前氏の急逝の後、遺族から本学に一括して寄贈された。楽器ばかりではない。寄贈された遺品は、ほかに録音テープ、写真、フィールド・ノート、レコード、書籍、楽譜などの研究資料を含む。これらを保管整理し、将来の民族音楽学、楽器学の研究に役立てるべく設立されたのが「小泉文夫記念資料室」である。これは昭和六十年六月六日に開室された。

さて、これらの楽器の名称、蒐集地、奏法、用途などについては、できるかぎり正確さを期したが、未詳にとどまったものも少なくない。個人の蒐集品であったため、個々の楽器についてそのような情報を記載した楽器カードは付されていなかったからである。この目録の記載についての誤謬の指摘ないし新しい情報の提供は有り難く、大方の御教示を期待する。

本目録を東京藝術大学創立百周年記念の年に上梓できることは喜びにたえない。これを作成するにあたっては、学外・学内の多くの方々の御協力と御援助を賜った。また楽器を同定することから、それを補修し写真撮影する段階まで、あらゆる面でさまざまな方々のお力添えなしには、本冊子がこのような形をなすことは不可能であった。ここで全ての方々に心からの謝意を表する。

なお、本目録の編集作成に直接たずさわった資料室の助手および調査要員と写真撮影・楽器補修協力者は下記のとおりである。

編集協力　井上貴子、岩淵育子、植村幸生、大竹知至、草野妙子、G・グローマー、甲地利恵、小柴はるみ、薦田治子、佐竹悦子、佐藤まり子、住吉紀子、芹沢薫、龍村あやこ、田中多佳子、土金裕子、H・デフェランティ、中村仁美、坂公道、東暁子、福岡正太、皆川厚一、宮丸直子、山本宏子、横井雅子、米山まどか、渡辺きみ子、渡辺潤子、G・ワトソン

写真撮影　浅野美生、小川あづさ、小柴はるみ、佐藤望、皆川厚一

撮影協力　大久保篤、木下大輔

楽器補修　秋田孝弘、小川楽器店、小林恵理子、坂田進一、塩野麻理、信太司、鈴木隆弘、藪内佐斗司

昭和六十二年九月吉日

東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室長　柘植元一

（横組）（『所蔵品目録』東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室）

音楽学部長より百周年募金委員に送られた礼状。

昭和六十二年十一月十九日

東京芸術大学音楽学部長

服部幸三

百周年募金委員各位様

百周年記念事業に関する御礼

拝啓。今年も残りが少なくなりました。お変わりなくお過ごしのことと存じます。

本年は東京芸術大学創立百周年の年に当たり、慌ただしい思いで過ごしてまいりましたが、その間、皆様方の温かいご支援とお力添えを賜りましたことに心から感謝の念を覚えております。

お蔭様で、去る五月三十日のジャン・フルネ指揮の管弦楽演奏会に始まる百周年記念演奏会も残るところは十一月二十七日の《グレの歌》のみとなり、毎回ご好評を戴いて来ました。併せて催した記念楽器展には、一六、〇〇〇人を超える入場者があり、立派なカタログを発行することが出来ました。また、私たちにとって本当に嬉しいのは、心の故郷である奏楽堂が百周年の年に「重要文化財」として蘇ったことであります。百周年記念事業と将来の芸術国際交流の基金作りを目指してスタートした募金も、ご支援の賜物で、現在一億円に近付いて参りました。以上、経過の概要を感謝をもってご報告申し上げます。

なお、蘇った奏楽堂と芸大音楽学部の百周年をテーマとしたNHKの番組が下記のように放映される予定ですので、お知らせ申し上げます。

昭和六十二年十一月三十日（月）午後八時～八時四十五分

NHK教育テレビ「ETV8」

昭和六十二年十二月一日（火）午後三時十五分～四時

再放送

日々に寒さを加える折から、どうぞご健勝に過ごされますように。

敬具。

募金業務についてのお問い合わせは、音楽学部事務長補佐田中武（☎〇三―八二八―六一一一、内線四〇二）宛にお願い申し上げます。

（『百周年記念事業関係―芸術研究振興財団関係―』）

『学報』第二六〇号に掲載された各部会長挨拶より、「総評」「式典部会」「記念演奏会」「記念楽器展」を掲載する。

東京芸術大学創立一〇〇周年記念事業各部会長挨拶

『総評』

昭和六十二年、我が東京芸術大学は創立一〇〇周年を迎え、十月四日に一〇〇周年の記念式典を行い、十月二日より十一月二十七日まで記念事業として、美術学部は学内陳列館と都内四カ所の百貨店にて資料館収蔵美術品及び現職教官作品、芸大に改組されて以来在職された教官の作品を展示し、音楽学部は七カ所において演奏会を開催致しました。

長期にわたる記念行事で、いろいろ心配されることもありましたが、無事大過なく、盛会の内に終りましたことは、この行事に関係された方々の大いなる努力によるものと心からの敬意を表します。

この記念行事により一〇〇年の歴史への反省と、さらに一〇一年

の出発への一歩に何らかの寄与するところがあれば甚だ幸いと存じます。

創立一〇〇周年の行事が、無事盛会裏に終りました事を御報告致しますと共に、この行事にご協力頂きました方々に感謝を致し、ご挨拶と致します。

東京芸術大学長
藤本能道

『式典部会』

十月四日（日）午前十一時から、音楽学部第六ホールで東京芸術大学創立一〇〇周年記念式典が挙行された。珍しいほどの晴天に、ほのかに木犀の薫りが漂う。前日から、全学の事務職員が準備を整え、諸事滞りなく進んだ。紅白の祝い饅頭、記念展覧会の図録一式が来会者（約五〇〇人）に配られる。学長式辞に続き、塩川文部大臣（阿部高等教育局長代読）、森東大総長（国立大学協会会長）、福井元学長の三氏が来賓祝辞を述べられた。その全文は「学報」第二五二号（62・10・15）所載のとおりである。祝電の披露などがあり、小憩ののち、この日を祝して、三曲《尾の上の松》が音楽学部邦楽科の教官（箏安藤正照、三弦砂川康江、矢崎明、尺八山口五郎）によって晴れやかに演奏された。式典終了後、場所を寛永寺側の道路をへだてた体育館に改め、祝賀会に移ったが、祝いの席を準備したのは、ながらく学内食堂を営まれるキャッスルと大浦食堂の方々である。

全学の協力と周到な準備、とりわけ稀にみる好天に恵まれたのが幸せであった。

創立一〇〇周年記念式典部会長
服部幸三

『記念演奏会』

昭和六十二年は東京芸術大学創立一〇〇周年の年に当たり、この年を記念して諸行事が計画され、昭和五十九年度より準備に入り、演奏部会としては記念演奏会を計画し、例年の定期演奏会においては演奏困難な曲の演奏や、外部からの著名な指揮者の招聘、歴史的な演奏の再現、全学的参加による演奏等を企画、ジャン・フルネ氏指揮によるオーケストラの演奏会、流派を超えての合同演習を行った邦楽の演奏、意欲的な作曲科教官による作品展演奏会、旧奏楽堂における日本初演のオペラの再演、専門家を迎えてのガムラン音楽、教官学生一体になっての室内楽、若杉弘氏指揮による声楽科教官・学生、学生も加えた大編成の大学オーケストラによるシェーンベルク作曲の「グレの歌」と、今後の東京芸術大学の歴史に残る演奏会を何の支障もなく、成功裏に無事終了することができました。記念すべき年に、学内外の多くの方々の御協力と御努力に深く感謝の意を表します。

創立一〇〇周年記念演奏部会長
大石清

『貴重図書展』

東京芸術大学創立一〇〇周年記念貴重図書展は、昭和六十二年十

一月十日から同月二十九日までの三週間にわたり本学の陳列館で開催され、延べ人員二、六四一名が入場した。また、これを機会に、同展の展示図書全部に関してそれぞれ一頁ずつの解題と写真を付した解題目録（二七〇頁）を刊行し、本学図書館蔵書に関する貴重な研究資料紹介として、役立てられた。本学図書館は、昭和六十二年五月一日現在、三八六、五〇九冊（うち和漢書一八六、五一八冊、洋書一九九、九九一冊）を擁しており、そのうち貴重図書として指定されているものが、七八三点ある。今回の貴重図書展には、上述の指定にかかわらず、広く本学所蔵図書から、あらためて貴重と判断される図書二五〇点が選ばれて、陳列館の一階と二階の全フロアを使って展示された。

全体は、I. 美術／和書、II. 美術／洋書、III. 音楽／和書、IV. 音楽／洋書の、四部で構成された。第一部の美術関係和書では、基本的資料として重要な作家の手録、鑑定控、秘伝書などを含めて、画論、画人伝、画譜、絵入本などを中心に七十九点を展示、なかでも、『光悦謡本』、『住吉家鑑定控』などが注目された。第二部の美術関係洋書では、一九八四年に特別予算で購入したラントフェール収集の『エンブレム・ブックス・コレクション』が中心となり、他に、ライレッセやヨンストンという近世日本の美術に影響を与えた洋書類をも加えて、総数四十二点が展示された。第三部音楽関係和書は、音楽取調掛時代の収蔵図書を中心に一〇〇点で構成された。この音楽取調掛は、唱歌教育以外にも音楽の広範囲な調査研究にあたり、そのために収集された図書には貴重なものが多いことが示された。第四部の音楽関係洋書は、十八～十九世紀の刊行書を中心とする総数三十一点で、その多くは、やはり音楽取調掛の時代に購入されたもので、我が国における洋楽受容史あるいは洋楽研究史の観点から貴重な資料である。手稿本では、皇紀二六〇〇年関係のブリテンほかによる五曲の自筆譜が注目された。

創立一〇〇周年記念貴重図書展部会長　辻　茂

『記念楽器展』

一九八七年十月四日（日）から同月二十五日（日）まで、台東区の旧東京音楽学校奏楽堂にて開催。原則的には午前九時三十分開館・午後五時閉館で月曜日は休館した。計十九日間の開館日の総入場数は当初の予想をはるかに上回り、一五、八六九人にのぼった。展示会場は一階正面から向かって右側の三室で、部屋毎にいくつかのテーマを設定、そのコンセプトも、最も端的に示す楽器を厳選の上、所蔵楽器六四三点中、約五分の一にあたる一二二点を展示した。第一室は『変身する皮』と題し、動物の皮革を利用して作られた音具を、第二室は『葦は歌い、竹は響く』と名付け、竹や葦を素材とした様々な楽器を、また第三室は『音を生む形』と題し、独特な美しい形をもつ世界の弦楽器を展示した。第一室の一部には、観覧客に実際に触って鳴らして、音をじかに自ら体験してもらう場『触れて聴くアジア』のコーナーを設け、十二種計三十七個の楽器を置いた。さらに、当該の楽器の背景を示すような映像を時々モニターに映して見せたり、専門の演奏家によるミニ・コンサートを第一室内で計十四回行った。部屋の外の廊下まで観客で一杯になったことも屢で、

その熱演は聴衆に新鮮な感動を与えたばかりでなく、展示してある楽器を一層活き活きと身近なものに感じさせてくれた。音楽学部の関係教官及び多くの学生の力が集められたほか、ポスター、ちらしのデザイン製作から展示場の構成等一切を美術学部のデザイン科の学生が献身的に協力し、その協同作業は一〇〇周年に誠に相応しい美しい姿であった。楽器の即物的展示に留どまらず、楽器の生きた姿を多角的・多感覚的に捉えられるようにというこうした努力は、『さすが芸大ならではの楽器展である』という賞賛の言葉となって報いられ、大変嬉しい思いであった。

創立一〇〇周年記念楽器展部会長

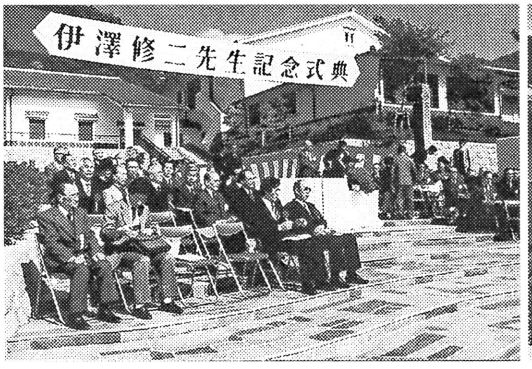
稗田一穂

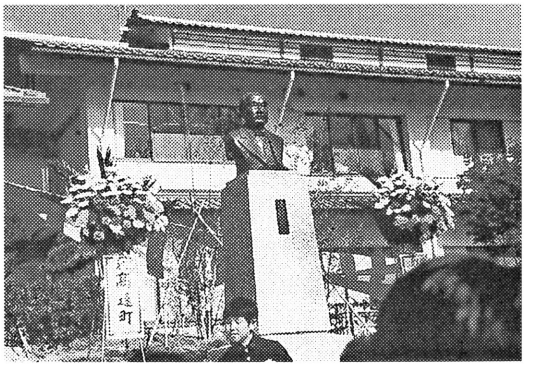
（文責　記念楽器展委員　柘植元一）

（横組）（『東京芸術大学学報』第二六〇号　昭和六十三年三月十五日　九～一〇頁）

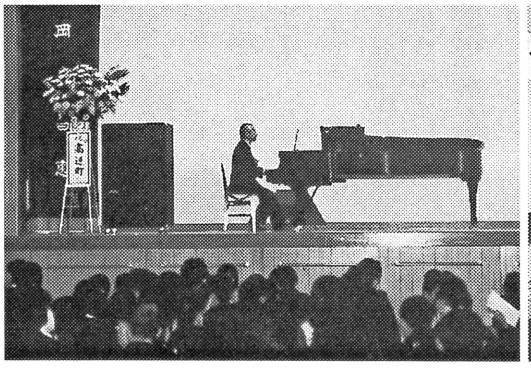
伊沢修二先生記念祭

昭和62年11月１日，東京音楽学校初代校長伊澤修二の功績を記念する催し。伊澤の郷里長野県上伊那郡高遠町において行われた。当日のプログラムは本百年史『演奏会篇　第三巻』336～374頁に掲載済。



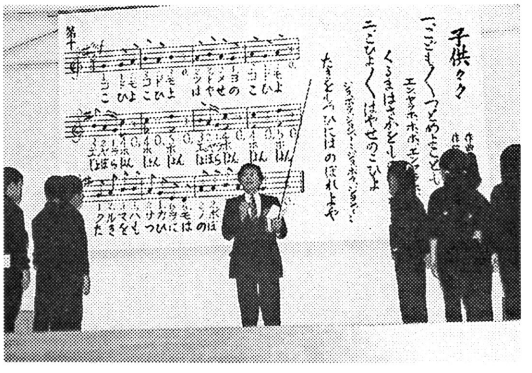


式　典



服部幸三音楽学部長による講演「伊沢修二先生を偲んで」

町歌斉唱のオーケストラ伴奏
（指揮：遠藤雅古）



伊沢修二作曲の唱歌による小学生合唱より
唱歌授業「子供子供」（指導：山本文茂）